

令和6年度標準学力検査 教研式N R Tの検査結果について

令和6年6月14日（金）、第1学年及び第2学年を対象に実施した令和6年度標準学力検査 教研式N R Tの検査結果が届きました。

本検査は、学習指導要領に準拠し、各教科の「内容」に合わせた領域で構成されており、全国の学力水準と比較して相対的に学力を把握するためのものです。本校生徒の学力を把握・分析し、今後の授業改善や生徒への教育指導の充実に役立てていきます。

【第1学年】各教科の大領域別正答率（％）の比較

教科	内容	豊栄中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	66.1	62.0	107
	書くこと	63.5	61.4	103
	読むこと	61.2	60.6	101
数学	数と式	64.0	65.5	98
	図形	48.8	53.1	92
	関数	58.5	58.6	100
	データの活用	57.0	57.5	99
理科	エネルギー	66.3	65.8	101
	粒子	53.4	50.0	107
	生命	77.7	74.1	105
	地球	55.5	59.2	94

【第2学年】各教科の大領域別正答率（％）の比較

教科	内容	豊栄中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	61.7	62.9	98
	書くこと	57.2	62.2	92
	読むこと	50.0	50.0	100
数学	数と式	44.1	59.0	75
	図形	40.1	52.4	77
	関数	31.1	48.3	64
	データの活用	51.9	55.7	93
理科	身近な物理現象	48.1	61.7	78
	身の回りの物質	59.3	64.1	93
	いろいろな生物とその共通点	58.2	64.3	91
	大地の成り立ちと変化	49.0	54.2	90

【第1学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことはいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。中領域別に細かく見ると、話すこと・聞くことのうち「工夫して話し、感想や考えを持つ」が全国平均を2ポイント、書くことのうち「文章を整え感想や意見を伝え合う」が全国平均を2ポイント、「送り仮名を含む漢字の書き」が全国平均を6ポイント、読むことのうち「漢字の読み・熟語の構成等」が全国平均を4ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
数学	大領域の、関数は全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、大領域の、数と式、図形、データの活用はいずれも全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、数と式のうち「数」が全国平均を2ポイント、「式」が全国平均を4ポイント、図形のうち「平面図形」が全国平均を5ポイント、「立体図形」が全国平均を3ポイント、関数のうち「比、百分率、速さ」が全国平均を1ポイント、データの活用のうち「データの考察」が全国平均を2ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
理科	大領域の、エネルギー、粒子、生命はいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、大領域の、地球については全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、エネルギーのうち「振り子の運動」が全国平均を19ポイント、生命のうち「植物の体のつくりと成長」が全国平均を4ポイント、地球のうち「月と太陽」が全国平均を12ポイント、「流水の働きと土地のつくり」が全国平均を2ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。

【第2学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、読むことは全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、大領域の、話すこと・聞くこと、書くことはいずれも全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、話すこと・聞くことのうち「情報を選び構成を考えて話す」が全国平均を6ポイント、書くことのうち「情報を選び構成を考えて話す」が全国平均を9ポイント、「目的に応じて工夫して書く」「漢字の書き」が全国平均を7ポイント、読むことのうち「主題や構成を読み取る」が全国平均を5ポイント、「要点をとらえ内容を解釈する」が全国平均を5ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
数学	大領域の、数と式、図形、関数、データの活用のいずれも全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、数と式のうち「小学校までの計算」が全国平均を29ポイント、「正の数・負の数」が全国平均を6ポイント、「文字式」が全国平均を8ポイント、「方程式」が全国平均を20ポイント、図形のうち「平面図形」が全国平均を14ポイント、「空間図形」が全国平均を11ポイント、関数のうち「比例と反比例」が全国平均を17ポイント、データの活用のうち「ヒストグラムや相対度数」が全国平均を2ポイント、「多数回の試行による確率」が全国平均を8ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
理科	大領域の、身近な物理現象、身の回りの物質、いろいろな生命とその共通点、大地の成り立ちと変化のいずれも全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、身近な物理現象のうち「光と音」が全国平均を15ポイント、「力のはたらき」が全国平均を9ポイント、身の回りの物質のうち「いろいろな物質とその性質」が全国平均を3ポイント、「水溶液」が全国平均を6ポイント、「状態変化」が全国平均を5ポイント、いろいろな生命とその共通点のうち「動物のなかま」が全国平均を15ポイント、「植物のなかま」が全国平均を6ポイント、大地の成り立ちと変化のうち「火山活動と火成岩」が全国平均を12ポイント、「地震」が全国平均を7ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。